

第一回

平成二十一年度

宇都宮短期大学附属中学校

入学試験問題

国語

注 意

- 1 「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 試験時間は四〇分間です。
- 3 問題数は大きな問題が二問で、問題文は一ページから六ページまであります。
- 4 答えはすべて解答用紙に記入してください。
- 5 「始め」の合図があったら、すぐに受験番号と氏名を解答用紙に記入してください。
- 6 試験中に質問があれば、手をあげて先生に聞いてください。
- 7 「やめ」の合図があったら、すぐやめて、鉛筆をおいてください。

〔一〕 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

医学はここ百年のあいだに急速な進歩をとげたといわれています。しかし、病気になる人の数は減るところか年々増え続けています。医学が本当に進歩しているのだとしたら、なぜ病人が減らないのでしょうか。

それは現代の医学が、最初の入り口を間違えたからではないでしょうか。

現代の医学は「治療」、すなわち病気を治すことからスタートしています。それがそもそもの間違いだと私は思います。**(1)** から始まる医学ではなく、健康な状態から体をとらえ、どうしたら健康を保ち続けられるのかということを考えていかなければ、「本当の医学」というのは成り立っていないのではないのでしょうか。

さまざまな論文を読み、患者さんに協力していただき、臨床データを集め、薬の影響をみずからの体でケンショウし、野生の動物たちにも学びました。その結果、私がついにしたのは、「この世をすべて包んでいる自然の法則に反することをすると人間は病気になる」ということでした。

野生の動物たちには、生活習慣病といえるような病気はほとんど見あたりません。もちろんそこには、医者や薬のない野生の世界で、病気になることは、死にチョックケツしてしまうからという一面も あります。

しかし、人間のように病気の一步手前の「未病」の状態の野生動物がほとんどいないこともまた事実です。彼らはなぜ病気になるのでしょうか。それは彼らが自然の法則にそった生活を送っているからです。

命というのは本来、健康に寿命をまっとうできるような仕組みをもっているのではないのでしょうか。初めから**(2)** になることが運命づけられている命などないのです。

命は健康に生きるために必要な「シナリオ」をもって生まれてくるのではないだろうか——私はそれを「命のシナリオ」と呼んでいます。かんたんにいうと、動物たちは生きるために必要なことを「本能的に知っている」のです。つまり、野生動物は、本能的に「命のシナリオ」を知り、それに従って生きていくということです。

肉食動物の「歯」と草食動物の「歯」が違うのは、あなたたちの食べ物はどういうものですよ、という自然の法則の表れにほかなりません。私たち人間の歯並びにも、そうした自然の法則はちゃんと組み込まれています。

人間もちゃんと「命のシナリオ」をもっているということです。おごりたかぶってそれを無視しているのは私たち自身といえます。

自然の法則にそった「命のシナリオ」を無視してしまったのは、人間の限りない「欲」です。「考える」という人間に与えられた神のめぐみをとって、みずから特別な存在だと思いきんできた人間は、ほかのどの動物よりも自分たちは高等な生き物なのだと思います、彼らを家畜やペットとして自分たちの都合のいいように支配してきました。

これまで人間が培ってきた文化は、ある意味で「欲」の文化でした。よりおいしいものを食べたいという欲を満足させるために、自然の法則にそった食の範囲からはみ出し、より便利な生活をしたという欲を満足させるために、さまざまな文明のリキを生み出すとともに、自然環境を破壊してきました。もっとラクに作物を育てたいという欲は、農業を作り出し、もっと土地やお金が欲しいという欲が、アラソイを生んできました。

いまの人間社会は、そうした自分たちの拡大させつづけてきた「欲」と「便利さ」の代償を、病気というかたちで支払っているのかもしれない。

でも、もうそろそろ現在の医学の延長線上に本当の**(3)** はないということに気づいてもよいころです。私たち人間も自然の一部です。自然の一部が健康に生きるには、自然の法則に身をゆだねなければなりません。自然の法則に身をゆだねるというのは、みずからソナわった「命のシナリオ」に耳を傾けるということです。太っているのに餌を食べる感じるのは、必要な栄養素が足りないからです。下痢をしたり便秘をしたりするのは、体に適さないものを食べ

ているからです。そして、**(4)** になるのは、「命のシナリオ」を無視しているからです。

ですから、これからの医学は、これまでのように病気を力でねじふせていくような医学ではなく、自然の法則に立ち返り、「命のシナリオ」に耳を傾け、みずからにそなわった自然治癒力を目覚めさせ、命を養っていく医学にシフトしていくべきだと私は考えています。

(新谷弘実「病気にならない生き方」から)

(注1) 臨床⇨病人を実際に診察して治療すること。

(注2) シナリオ⇨台本。あらかじめ仕組まれたもくろみ、筋書き。

(注3) 代償⇨代わりとして支払う犠牲。

(注4) 治癒⇨病気、けがなどが治ること。

(注5) シフト⇨場所や位置を移動させること。

問い1 || 線 a s g の漢字の読み方をひらがなで、カタカナを漢字で書きなさい。

問い2 ① 病気になる人の数は減るどころか年々増え続けています。とありますが、その原因に当たる本文中の言葉を二つ、解答らん「〜から」に続くように、それぞれ二十六字と二十九字で書きぬきなさい。(、や。やその他の記号も字数に数える。)

問い3 ② 間違いとありますが、何が「間違い」なのですか。解答らん「〜こと」に続くように、本文中の言葉を用いて二十二字以内で答えなさい。(、や。も字数に数える。)

問い4 (1) (4) には、「健康」または「病気」のいずれかが入ります。「健康」ならア、「病気」ならイと答えなさい。

問い5 ③ あります。の主語を本文中の〜線ア〜オから選んで、記号で答えなさい。

- ア そこには イ 野生の世界で ウ 病気に エ なることは オ 一面も

問い6 ④ 本能的に知っているとありますが、人間の場合の実際の例について述べられた一続きの二文を探し、最初の五字を書きぬきなさい。(、や。も字数に数える。)

問い7 ⑤ おごりたかぶって、身をゆだねなければの本文中での意味は、それぞれどれですか。下から最も適当なものを選んで、記号で答えなさい。

- ⑤ おごりたかぶって
- | | |
|---|--------------------|
| ア | 自分の都合ばかりを考えて |
| イ | 理性を失い、感情が高ぶって |
| ウ | ばかにして、わがまま勝手にいばって |
| エ | 不満や不快を抑えられず、相手を責めて |

⑥ 身をゆだねなければ

ア 安心して身を任せなければ
ウ がまんして服従しなければ

イ 身をもてあまさなければ
エ 喜んで働きかけなければ

問い8 ⑦ 病気を力でねじふせていくような医学とありますが、これとほぼ同じ内容を表している別の言葉を、本文中から二字で書きぬきなさい。

問い9 ⑧ 命を養つていく医学とありますが、このような医学を、筆者はどのように呼んでいますか。本文中から五字で書きぬきなさい。

問い10 次のそれぞれの文について、本文中で筆者が言いたいことと合っているものには○を、合わないものには×をつけなさい。

ア 人間にも「命のシナリオ」は組み込まれており、その自然の法則に従って生きるならば、野生動物と同じように健康に寿命をまっとうできるはずである。

イ 「医学が進歩している」というのは我々人間の思い違いであつて、病人を減らすために現代の医学に求められるのは「健康に寿命をまっとうできる仕組み」の解明である。

ウ 「命のシナリオ」に耳を傾けている人間が病気になつてしまうのは、「欲」の文化ばかりを培い、自然の法則に従つてこなかったからである。

エ 一般的な医学の中では「病気を治す」とことと「健康な状態を保つ」とことはまったく別の問題であり、病人を減らしていくためには、この二つを切り離して考えていかなければならない。

(二) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

少年は前のほうの席を選び、運転席を（A）のぞき込んだ。あの人だ、とわかると、また胸がすばまった。

初めてバスに乗った日にしかられた運転手だった。その後も何度か、同じ運転手のバスに乗った。たとえなにも言われなくても、運賃箱に回数券と整理券を入れてバスを降りるとき、いつもムスツとしているように見える。

いやだなあ、運が悪いなあ、と思ったが、十枚セットの回数券を買わないわけにはいかない。『大病院前』でバスを降りるとき、「回数券、ください」と声をかけた。

運転手は「早めに言つてくれないと」と顔をしかめ、足元に置いたカバンから回数券を出した。「河野」と書いてあつた。

「あの、……すみません、三冊……すみません……」

「三冊も？」

「はい……すみません……」

大きくため息をついた河野さんは、「ちよつと、後ろのお客さん先にするから」と少年に脇にどくようあごをふつた。

少年はほおを赤くして、他の客が全員降りるのを待った。お父さん、お母さん、お父さん、お母さん、と心の中で両親を交互に呼んだ。助けて、助けて、助けて……とうつたえた。

客が降りたあと、河野さんはまたカバンをさぐり、追加の二冊を少年に差し出した。代金を運賃箱に入れると、「かよってるの?」と、さつきよりさらにぶつきらぼうに聞かれた。「病院、かようんだったら、定期のほうが安いぞ」

わかっている。^② そんなの、言われなかったって。

「(1)」

かほそい声で答え、そのまま、逃げるようにステップを下りて外に出た。全然とんちんかな答えをしたことに気づいたのは、バスが走り去ってから、だった。

^③ 夕暮れが早くなった。病院に行く途中で橋からながめる街は、ほのおが燃えたつような色から、もつと暗い赤に変わった。帰りは夜になる。最初のころは帰りのバスを降りるときに広がっていた星空が、今はバスの中からながめられる。病院の前でバスを待つとき、いまはまだ (B) 西の空に夕日が残っているが、あとしばらくすれば、それも見えなくなってしまいうだろう。【 I 】

買った足した回数券の三冊目が——もうすぐ終わる。

少年は父に「むかえにきて」とねだるようになった。車で通勤している父に、会社帰りに病院に寄ってもらって一緒に帰れば、回数券を使わずにすむ。

それでも、行きのバスで回数券は一枚ずつ減っていく。最後から二枚目の回数券を——今日、使った。

^④ 明日からはおこづかいでバスに乗ることにした。毎月のおこづかいは千円だから、あとしばらくはだいじょうぶだろう。

ところが、むかえに来てくれるはずの父から、病院のナースステーションに電話が入った。【 II 】

「今日はどうしても抜けれられない仕事が入っちゃったから、一人でバスで帰って、って」

看護師さんから伝言を聞くと、泣き出しそうになってしまった。今日は財布を持って来っていない。回数券を使わなければ、家に帰れない。

母の前では涙をこらえた。病院前のバス停のベンチに座しているときも、必死にくちびるをかんでがまんした。でも、バスに乗り込み、最初は混み合っていた車内が少しずつ空いてくると、急に悲しみが胸に込み上げてきた。シートに座る。

【 III 】 座ったままうずくまるような格好で泣いた。バスの重いエンジンの音に紛らせて、うめき声を漏らしながら泣きじゃくった。

『本町一丁目』が近づいてきた。顔を上げると、車内には他の客はだれもいなかった。降車ボタンを押して、手の甲で涙をぬぐいながら席を立ち、ウインドブレーカーのポケットから回数券の最後の一枚を取り出した。

バスが停まる。【 IV 】

運賃箱の前まで来ると、運転手が河野さんと気づいた。それでまた、悲しみがつのった。^⑤ こんな人に最後の回数券を渡したくない。

整理券を運賃箱に先に入れ、回数券をつづけて入れようとしたとき、(C) 泣き声が出てしまった。

「どうした?」と河野さんが聞いた。「なんで泣いてるの?」——、逆に涙が止まらなくなってしまった。

「財布、落としちゃったのか?」

泣きながらかぶりを振って、回数券を見せた。

じゃあ早く入れなさい——とは、言われなかった。

河野さんは「どうした？」ともう一度聞いた。

その声に（D）手を引かれるように、少年は嗚咽交じりに、回数券を使いたくないんだと伝えた。母のこともしゃべった。新しい回数券を買おうと、その分、母の退院の日が遠ざかってしまう。ごめんなさい、ごめんなさい、と手の甲で目元をおおった。警察に捕まってもいいから、この回数券、ぼくにください、と言った。

河野さんはなにも言わなかった。かわりに、小銭が運賃箱に落ちる音が聞こえた。目元から手の甲をはずすと、整理券といっしょに百二十円、箱に入っていた。もう、前に向き直っていた河野さんは、少年を振り向かず、「早く降りて」と言った。「次のバス停でお客さんが待っているんだから、早く」——声はまた、ぶっきらぼうになっていた。

（重松 清「小学五年生」から）

（注1）ナースステーション＝看護師のひかえ室。

（注2）ウインドブレーカー＝風や雨をよけるためのジャンパー。

（注3）嗚咽＝声にならない泣き声。

問1 この文章を場面転換のうえから大きく二つの段落に分けるとすると、後半の段落はどこからはじまりますか。後半の段落の最初の五字を書きぬきなさい。（、や。やその他の記号も字数に数える。）

問2 （A）（B）（C）（D）に入れる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|----------|---------|---------|---------|
| ア | 「A かるうじて | B とうとう | C すうつと | D そつと |
| イ | 「A とうとう | B すうつと | C そつと | D かるうじて |
| ウ | 「A すうつと | B そつと | C かるうじて | D とうとう |
| エ | 「A そつと | B かるうじて | C とうとう | D すうつと |

問3 ①胸がすぼまった、②かぶりを振っての本文中での意味は、それぞれどれですか。下から最も適当なものを選んで、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|---------|-----------|-------------|
| ① | 胸がすぼまった | ア 不安にかられた | イ 不快感が広がった |
| | | ウ 怒りにふるえた | エ 緊張感がこみあげた |
| ② | かぶりを振って | ア 否定して | イ ふてくされて |
| | | ウ うなずいて | エ 勇気をふりしぼって |

問4 ②そんなのとありますが、どのようなことを指していますか。本文中の言葉を使って、二十五字以内で答えなさい。

問5 ① ② にあてはまる言葉として最も適当なものを、それ

ぞれ次の中から選んで、記号で答えなさい。

(1)

ア ……そうです、よね イ ……次からは、そうします
ウ ……お見舞い、だから エ ……だとしたら、なんなのですか

(2)

ア 河野さんの前では泣かないと誓ったばかりなのに
イ ぶっきらぼうでない言い方をされたのは初めてだったから
ウ じゃまだと言わんばかりの責めたてるような言い方をされて
エ 同情してくれているのかどうかわからない河野さんの態度のせいで

問6 ③ 夕暮れが……バスの中からはながめられる。とありますが、この表現からは読み取れないことを、次の中から

一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 秋のさびしさが、だんだん深まっていること
- イ 母の病状が日増しに悪くなっているということ
- ウ 季節が移り変わって、日が短くなっていること
- エ 母が入院した日から、ずいぶん日数がたっていること

問7 ④ 次の文は【Ⅰ】と【Ⅳ】のどこに入りますか。ⅠⅢⅣの記号で答えなさい。

窓から見えるきれいなまんまるの月が、じわじわとにじみ、揺れ始めた。

問8 ④ 明日からはおこづかいでバスに乗ることにした。とありますが、それはなぜですか。その理由にあたる部分を、解答らん「〜と少年は思っているから」に続くように、本文中から書きぬきなさい。

問9 ⑤ こんな人とありますが、これを説明した次の文の [] にあてはまる言葉を、それぞれ本文中から書きぬきなさい。ただし、アは六字、イは十七字とします。

[] ア

[] イ

運転手の河野さん

問10 ⑦ 目元から手の甲をはずすとありますが、このときの「少年」の気持ちとして適当でないものを次の中から三つ選んで、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | |
|---|----|---|------|---|-----|---|-----|
| ア | 驚き | イ | くやしき | ウ | 疑い | エ | おびえ |
| オ | 怒り | カ | 期待 | キ | 悲しみ | | |